

教育実習についての報告(第2報)

— 教育研究実習の方式 —

織 田 長 繁

まえがき

本年度教育学部3年生の教育実習は中学校において行なわれたもので、内容上画期的なものであった。この実習校としての本校は赤塚と東山に両分され、教官が相互に移動している悪条件下にあったために、教生にも学部にも本校自身にとっても不満足な状態で行なえなかった。しかしその実施の概要を記して参考にしたい。ただ、ここに記すものは研究ではなくして実践報告の域に止まっていることを御諒承願いたい。

I 本年度の教育実習

昨年度の実習が、一昨年度と変った諸点については、紀要第8集にのべた通りである。その要点は

1. 教育実習は教科実習ではなく「教育」の実習とする。
2. 教生は学級に配属し、学級担任の指導によって学級を通じて実習を行なう。
3. 教科指導はその学級の教科担任教官の指導をうける。
4. 学級毎に研究課題を設定してその成果を発表する。

の4点に結論できる。

実施の結果については、教生の努力が授業と研究に両分され時間に余裕がなくなったことその他があった。教育学部実習委員会や教授会では実習について種々な立場から長期間検討が加えられた。特に教育学部が教員養成学部でないこと、学部卒業生の目指す就職先などの現実的な問題から、教育実習の本質的なあり方と基本的性格が真剣に討議され、そこから実施方法が生み出されてきた。その要点は

1. 教育実習は教育の実習であると共に教育研究の実習であること。
2. その方法は観察を主体とすること。
3. その期間は5日間とすること。

であった。

前年度と異なる主要な点は、今回の実習が「教育研究」の実習とされたことで、すでに教育実習が「教育

の実習」とされていたものが一層明確に「教育研究の実習」と規定されたことである。この場合の「教育研究の実習」とは教科指導を実施することからするものではなく、現場のいきた状態の観察を主眼として、それによりそれを通じて研究を進めることを実習するにあった。また研究の徹底を期するために教生の人員を少なくし、従って本校以外に公立中学校2校が協力校とされたこと、期間が5日間とされたことも、著しい相違と言える。しかし学級に配属し学級を通じて実習する方針には変更がなかった。

研究実習の成果を上げるため、オリエンテーションは特に学部側で努力が重ねられた。教生から提出された研究テーマに基づき、学部実習委員会では全体・個人の両面からの入念な指導があり、実習開始の直前には勤務その他具体的な項目についての指導も加えられた。本校においてもこれに即応してオリエンテーションを実施した。その内容は学校の一般的概要の説明の外、特に学級担任とその学級に配属された教生との間に行なわれた。教生からは各自の研究テーマの意図の説明とその解決策、細部にわたる具体的計画と各種資料の収集整理の問題が提案され、学級担任からはこれらに対する見解がのべられ助言が与えられ、また配属された学級の特色性格が説明された。これらに要した時間は約4時間であった。このオリエンテーションは実習1週間前に行なわれ、教生各自の研究テーマが別表1のように決定した^{註1}。本校ではこれより先、予め知らされていた研究テーマの内容を分類整理して類似テーマを組み合わせ、各学級担任教官の意見を入れて、2名ずつ各学級に配属し、教生相互の連絡協調によって成果をあげ易いようにした。その主題は第1学年においては学習と成績の問題、第2学年では人間関係を中心としたグループおよび学級の問題、第3学年では家庭と学校および附属中学校の特殊性の問題をそれぞれ中心にした。

II 実習の実施

実施計画案は別表2の通りで、10月25日から30日まで正味4日半しかなかったが、最終日の午後は研究減

果の中間発表の場とした。また第1日の始業前に全校と各学級への紹介を終り、第1限から直ちに観察に入るようにした。観察は別表2の注の通りに3段階に分けたが必ずしも計画通りにする必要はなく、観察から得られた資料とそれ以外の資料（生徒との話し合いの結果や学校側にある種々の記録など）を適宜整理し補充し、解決へ進ませることとした。

実習が開始されると共に、教生は初めの3日間程はほとんど毎時間教室にあって観察した。生徒には例年と違って教生の授業はない旨予め説明しておいたけれども、今までに経験しない教生であったためか、教生を傍観者のように見て親しみを覚えなかったようである。そのためにも教生は積極的に生徒の中へ入ろうと焦りながらも努力を重ね、目的を果たしたのも少なくなかった。授業は原則として行なわない方針であったが、授業が欠ける場合には本校教育実習委員・教務部の指示によって教室に出て、復習・作文・生徒との話し合い・文化祭行事の練習などを行なって生徒と直接に接触した。

教材研究の負担がなかったので研究には全力を集中できたように思うが、後半期になると中間発表に備えて6時すぎまで準備に忙殺された。第4日目には学部実習委員が来校され研究についての指示があり、教生は意を強くしてまとめの段階を進めたようである。

Ⅲ 研究について

研究の結果は最終日の午後1時から学部実習委員を迎えて、中間発表報告会において発表された。

観察を主体とした短期間の研究ではあったが、全体としては相当な程度のもが多かったといえる。問題の焦点をよくしぼって、必要な資料から鋭い考察を加えたまとめありある優れたものも若干はあった。また考察が余り加えられず平面で羅列的なものや、はっきりと焦点を合わせられなかったものもある。しかし共通な特徴は必要な資料にやや不足したことと、逆にデータにふり廻されて十分な整理と検討の段階にまで到らなかったことが感じられた。これは期間が短かったことと、教生がこれまで経験したことがない教育の現場と言う大きな力に押されたことによるのではないだろうか。

教生のとった研究方法は、二の場合を除いて大体2つの類型に分けられる。その1は自己のテーマに従って目的とする観察を行ない、その結果を分析して仮説を設定し、次の段階でアンケート・テスト・面談・作文・学校側の諸記録などを利用して仮説を実証し発展させ掘り下げる方法である。第2のものは最初にアンケート・テスト等を実施して問題点を探り出し、そ

の問題点を観察によって確かめながら教官の助言・作文・諸記録などによって発展させ深めていったものである。

Ⅳ 実習の結果

今回の実習で、教生が授業をしないことは生徒に徹底してあった。しかしこの方法は、過去に行なわれてきた教育学部学生による実習や教育学部以外の学部学生による実習とは著しく異なった処で、生徒が奇異の感じを抱き教生が傍観者と見なされたのも無理はない。この形の実習が生徒にどのように受けとめられたか、また教生自身がどのように感じたかを一、二の点について考察してみる。

生徒への各項目別5段階方式によるアンケートは別表3の通りである。その中から若干の項目について、「はい」を5、「いいえ」を1、「どちらでもない」を3、その中間をそれぞれ「4」「2」の数値で得た合計を、学級の生徒数（未記入を除く）で除したものが別表4である。両表の数値は教生が選んだテーマの性質・生徒への接触の方法や程度・教生の性格等により、また学級自体のもつ性格や雰囲気によって、平面的に比較するだけで十分な意味があるかどうかは疑問があるけれども、一応このことを念頭に入れた上で検討してみる。

別表4からは、3Aを除いて生徒から教生への各面での働きかけは弱く、教生から生徒への働きかけが積極的であったことが明らかである。中でも3Aと1Bは教生の働きかけが積極的であったと見られる。3Aについては生徒から教生へ、教生から生徒への両者の動きが強い。このことは別表3から学級の相談をしたり学校のことや勉強以外のことについての話しをきくなどで他のクラスより高い率を示していることから推定できる。1Bがこれに次いでいるが、このような動きが全学年にわたるのが望ましいわけである。教生が積極的に働きかけたことは前述の教生実習日誌にも示されているけれども、何とかして生徒の中へ入りたいとする意欲が生徒に感じられたことを意味している。そしてこの働きかけは別表3からみても、1組を除いて65%以上の者が何等かの程度で親しんでくれたと感じていること、また全学級で60%以上のものが学級の仕事を手伝ってくれたと思っていることがその例である。さらに1Bと3Aが他のクラスに比べて高い率を示しているのは、クラスのことや相談にのってくれたかの項目である。授業面での接触はなかったにもかかわらず、この傾向（クラスに親しみ相談にもり仕事を手伝ってくれた）が、2つのクラスにおいて明瞭に認められたことは教生のあり方として注

目すべき点であろう。

さらにこれを発展させて、もっと長くいてほしかったかの問には、各クラス共半数以上が望んでいるけれども1 Bは91%が、3 Aは78.2%がこれに応じている（1 Aは59.4、2 Aは54.1、2 Bは78.0、3 Bは65.8である）。これに関して授業をしてほしかったかの回答は、1 Bが81.2%が望んでいるのに、3 Aは52.4%が望んでいるにすぎない。教生と生徒が互に積極的でありながらも長くいてほしい・授業してほしいの点では3 Aの方が1 Bより劣っているのは何故であろうか。この回答は明確に求められない。ただこのアンケートだけの結果では、教生から何か得たものがあつたかの問いに対しては3 Aが1 Bより倍近い数値（1 Bは17.6、3 Aは30.3）を示していること、また勉強について教えてくれたかの問いへの反応も3 Aがややまさっていること、その他の点（生徒が進んで勉強のことやそれ以外のことで教生に働らきかけたこと）では、優劣はつけられないことがあるので、3 Aは教生の積極的な働らきかけの中から生徒として何か得たものがあり、就中勉強については、刺激をうけた点に、1 Bと異なった意味での親近感があつたのではないか。だからといって長くいてほしい・授業をうけたいといったものには直結しない複雑さがある。これには教生の接し方に問題があつたことは十分考えられるけれども、比較的素直に教生をうけとめようとした1年生と、考えつつうけとめようとする3年生との年令的相違から来るものが潜んでいるように思われる。また授業の面だけを取り上げてみると、全学年共半数以上が望んではいるが、その率は1、2年と3年とでは開きがあり（1年は65.6%、2年は66.2%、3年は51.8%）、逆に何とも言えないとする回答が3年に25%前後ある（1年は17.2%、2年は10.4%）ことと合わせてみると、ここにも1年と3年の相違を感じないわけにはいかない。

教生側からみた感想が別表5である（数が少ないために実数で示した）。クラスに配属され、そのクラスを通じての実習には満足している。クラスへの接触は余りうまくいかなかったと反省しているけれども、方法の拙さをこえて生徒へ親しんだといえよう。しかしクラスも生徒も教生に対してとけ合った所まではいっていない。実施期間が短かすぎると殆んど全員が強く感じている所から、期間がその理由の1つではあるまいか。期間はせめて7日間、できれば2週間とする要望が圧倒的であるため、これがまた実習の成果にも影響したのではなからうか。これはデータの収集整理が不十分だとする回答が半数に近い処から裏付けられよう。実施時期も教生にとっては前期試験直後で準備

が不足し、生徒にとっては中間テスト直後でテスト返還が多く、短期間の中では不適当であったとしている。この点については将来の問題として検討されよう。

観察を一応3段階に分けたことについては、テーマの性質上無意味とするものが半数近くを示している。これも今後の宿題としたい。ただ指導教官（ホームルーム担任教官）との連絡が一部を除いては普通かまたはそれ以上と回答されたことは注目すべきである。今年度の校舎二分により、担任教官も全日中学校に勤務することができず、必要な連絡も取りにくい条件下にあつたのに、なおかつかかる数字を得たことは、教生の熱意もさりながら担任教官の良心的態度に敬意を表したい。

授業を実施しなかつた点については意見が分れてくる。短期間でこのような形の実習であるならば必要はないし、できなかったらうし、また実際にやっても意味が少なかつたのではないかとするもの、「むしろ授業を行なわないため、かえって生徒とザックバラに親しめた面もあつた」とする種積極的な意見、たとえ短期間であっても授業を通じその面からも少しでも生徒に触れたかつたとするもの、あるいは授業でなくても「これに代るようなもの例えば生徒との話し合いの場面を多くしてほしかった」とする巾広い意見にまとめることができる。しかし大勢としては、生徒と親しむための一方法としての授業を考えていて、授業そのものを第1義的に絶対必要としているのではなく、学部立案の実習の方針がよく徹底され、研究実習の線が進められたと見てよいであろう。

教職についての理解は、授業をしないので分らないがとの前提の下に、「教師の実態・現実を深く認識できた」し、「教育観や教育目標の徹底などの難かしさ」「漠然と考えたことが明らかになり、全然考えてもいないようなことに驚きを以って」感じとることができたとする傾向が多く、基本的なまた現実的な理解は十分に得たように思われた。

教育そのものへの理解についても、「具体的なものに接して教育の重みをひしひし」感じたり、「集団と同時に、また個人個人の発達を考えることが必要」で、それらは「理論の上からではなく実践の上から真に理解できるもの」だと分って、「今後大いに役立つ」と述べたもの多く、有効であつたことは論を待たない。

ま と め

以上が教育研究実習の概要を報告したものである。昨年度において見られた欠陥が今年度において是正された。特にオリエンテーションはその例である。昨年

度のようにぼう頭から混乱することなく円滑に実施できたのもそのためである。今年度の場合にも、生徒との接触の問題・期間・時期その他に、より綿密な検討と反省を要する点がある。反省すべき処は反省し、来るべき教育実習に備えたい。

注1 本校の実情によって、予め知らされていたテーマがやや変更されたものが2, 3あった。

注2 A 教生の実習日誌

「私たちは観察を主に行なっており教えるということをしないので、いきおい生徒との接触がなくなり又気味悪がられたり、警戒されることが多い……。」

B 教生の実習日誌

「生徒も教生を気にしている……。」

注3 B //

「何よりも生徒の中にとけこむことを必要としているのに、仲々生徒に話せなくて非常に困った。」

C //

「45人の生徒と私との間にはまだ心の通いはとどかないように思えた。1時間も早くこの生徒の中に入りこみたい。そしてなんでも話し合いたいと思う。」

注4 B //

「やはり生徒の中に入って見て良かった。本当に今日1日で非常に収穫があった。」

D //

「授業後教室の掃除の手伝いをした。多少生徒とも親しみがわいてきた。積極的に掃除に参加し、生徒たちと共通な1つの仕事をやる中で、少しずつ生徒がわかるようになってきた。」

注5 B //

「4日間はただ夢中で前後のみさかいもない様な全く余裕のない状態であった……。5日間で得たものはきわめてわずかであった、と言うより5日間では何も出来ないに等しいということであった。」

注6 C //

「生徒をみても圧迫感を感じなくなった。自分の教室もゆったりした気分でながめわたすこともできた。」

別表1 教生の研究テーマ一覧

学級	教育学科	教育心理	研究テーマ
1 A	1名	1名	生徒の学習意欲を左右するもの(特に1年において)学習の動機づけとしての「賞と罰」について
1 B	0	2	成績不振児の観察 成績不振児と先生との関係

2 A	1	1	グループ学習の実態とその問題点 学級内の人間関係と I. Q. 学力の関係
2 B	2	0	ホームルームの機構と運営 学級の人間関係が授業に及ぼす影響 特に英語
3 A	2	0	地域・家庭状況と学力の関係 こどもの生活を中心とした学校と家庭の関係について
3 B	2	0	附属の特殊性にまつわる種々の問題, 特に入試との関連 (注 共同研究)

別表2 昭和38年度教育研究実習実施計画案

日	曜	午 前	午 後	放 課 後
25	金	全校紹介・ ホームルー ム紹介 観察①	観察①	HR 教官連絡
26	土	観察②	(観察②, クラブ)	
28	月	観察②	観察②	観察②, クラブ
29	火	観察②	観察②③	観察②③
30	水	観察③	離任, 反省 (中間報告)	

注1 観察① HRの全体的把握 テーマに合うデータの把握

観察② データの収集(観察・面談・諸記録など)

観察③ データの整理, 補充

注2 (1) 実習上必要な場合を除いて授業は行なわない。

(2) 教育研究実習は学級担任の指導をうけ、ホームルームを通じて行なうことを原則とする。

教育実習についての報告（第2報）

別表3 生徒に対するアンケート（数字は%，100%にならないものは，未記入のためである。）

		1 A	1 B	2 A	2 B	3 A	3 B
1. HRのことについて相談しましたか	はい	0	8.8	22.2	17.0	36.9	9.7
	中間	2.3	15.5	4.4	14.6	8.6	19.5
	どちらでもない	9.5	28.8	26.6	14.6	26.0	14.6
	中間	7.1	20.0	0	4.8	0	7.3
	いいえ	80.1	20.0	35.5	46.3	23.9	46.3
2. HRとして教生のいろいろな経験を質問したことがありましたか	はい	4.7	11.1	13.3	12.2	41.3	19.5
	中間	0	8.8	11.1	0	8.6	7.3
	どちらでもない	4.7	6.6	15.5	14.6	6.5	14.6
	中間	4.7	11.1	4.4	7.3	2.1	12.1
	いいえ	85.7	55.5	51.0	65.8	39.1	43.9
3. 個人として勉強のことを質問したり意見をききにいたりしたことがありましたか	はい	4.7	20.0	15.5	9.7	26.0	4.8
	中間	2.3	11.1	0	0	4.3	4.8
	どちらでもない	4.7	0	8.6	14.6	10.8	7.3
	中間	4.7	2.2	2.2	2.4	0	4.8
	いいえ	78.5	62.2	51.0	70.7	58.6	73.1
4. 学校のこと自分自身のこと（勉強以外）について質問したり，意見をきいたことがありましたか	はい	21.4	35.6	20.0	26.8	43.4	29.2
	中間	7.1	8.8	15.5	4.8	6.5	12.1
	どちらでもない	2.3	4.4	6.6	9.7	4.3	7.3
	中間	4.7	8.8	0	12.2	0	2.4
	いいえ	65.8	35.6	53.3	43.9	45.6	48.7
5. 教生と親しめましたか（HRとして）	はい	7.1	51.0	37.7	43.9	47.8	34.1
	中間	9.5	28.8	22.2	14.6	19.5	14.6
	どちらでもない	23.8	13.3	17.7	19.5	17.3	39.0
	中間	19.0	2.2	6.6	2.4	4.3	12.1
	いいえ	41.4	0	15.5	14.6	10.8	0
6. 教生はHRに親しんでくれましたか	はい	14.2	73.3	42.2	53.6	60.8	46.3
	中間	7.1	11.1	22.2	21.9	19.5	31.7
	どちらでもない	35.7	13.3	17.7	1.9	10.8	12.1
	中間	19.0	0	8.6	0	0	7.3
	いいえ	21.4	0	6.6	4.8	4.3	0
7. HRのことで相談にのってくれましたか	はい	11.9	60.0	40.0	19.5	58.6	19.5
	中間	11.9	22.2	15.5	17.0	17.3	17.0
	どちらでもない	9.5	11.1	26.6	41.4	21.7	51.2
	中間	7.1	4.4	8.6	4.8	0	0
	いいえ	57.1	0	6.6	9.7	2.1	12.1
8. HRの仕事を手伝ってくれましたか	はい	78.5	84.4	60.0	46.3	56.5	36.5
	中間	2.3	6.6	17.7	14.6	19.5	31.7
	どちらでもない	0	2.2	4.4	24.0	10.8	21.9
	中間	7.1	2.2	2.2	7.3	2.1	0
	いいえ	9.5	0	13.3	7.3	8.6	7.3

一 般 研 究

9. 個人的に教生に親しめましたか	はい	16.6	35.6	42.2	39.0	36.9	39.0
	中間	14.2	28.8	6.6	9.7	13.0	9.7
	どちらでもない	14.2	24.4	20.0	12.2	21.7	17.0
	中間	14.2	6.6	11.1	7.3	6.5	7.3
	いいえ	41.4	0	20.0	26.8	19.5	26.8
10. 勉強のことについて、教生が積極的に教えてくれたことがありましたか	はい	2.3	8.8	15.5	0	17.3	2.4
	中間	9.5	11.1	2.2	7.3	26.0	17.0
	どちらでもない	7.1	24.4	44.4	19.5	32.6	26.8
	中間	9.5	22.2	0	7.3	2.1	7.3
	いいえ	71.4	28.8	37.7	60.9	21.7	46.3
11. 勉強以外のさまざまなことについて、教生の方から積極的に教えてくれましたか	はい	2.3	15.5	11.1	7.3	21.7	9.7
	中間	2.3	8.8	0	7.3	6.5	12.1
	どちらでもない	7.1	26.8	28.8	14.6	36.9	21.9
	中間	2.3	4.4	13.3	4.8	10.8	17.0
	いいえ	83.3	42.2	9.0	65.8	23.9	36.5
12. 教生に授業をしてもらいたかったと思いましたか	はい	47.8	73.3	44.4	56.1	45.6	43.9
	中間	2.3	8.8	15.5	17.0	8.6	7.3
	どちらでもない	16.1	13.3	11.1	9.7	26.0	24.3
	中間	4.7	0	0	0	4.3	2.4
	いいえ	28.5	2.2	26.6	17.0	15.2	21.9
13. もっと長くいてほしかったと思いましたか	はい	54.7	80.0	53.3	63.4	63.0	58.5
	中間	4.7	11.1	8.6	14.6	15.2	7.3
	どちらでもない	19.0	4.4	17.7	7.3	13.0	21.9
	中間	2.3	0	2.2	0	0	2.4
	いいえ	19.0	2.2	15.5	12.2	4.3	9.7
14. 教生から何か得た所がありましたか	はい	4.7	8.8	11.1	4.8	19.5	4.8
	中間	2.3	8.8	0	2.4	10.8	4.8
	どちらでもない	11.9	53.3	26.6	43.9	41.3	41.4
	中間	2.3	2.2	2.2	9.7	2.1	4.8
	いいえ	78.5	22.2	51.0	29.7	26.0	41.4

別表 4

学級 項目	1 A	1 B	2 A	2 B	3 A	3 B	平均
1	1.33	2.71	2.80	2.43	3.36	2.37	2.50
2	1.33	1.92	2.27	1.85	3.11	2.45	2.15
3	1.42	2.20	1.59	1.72	2.39	1.53	1.81
4	2.16	3.32	2.46	2.57	3.02	2.70	2.70
5	2.23	4.34	3.60	3.47	3.80	3.70	3.56
6	2.72	4.61	3.86	4.19	4.38	4.20	3.99
7	2.12	4.40	3.73	3.34	4.30	3.31	3.52
8	3.80	4.58	4.11	3.85	4.11	3.92	4.22
9	1.61	2.23	2.58	1.72	3.15	2.21	2.71
10	1.34	2.50	2.18	1.85	2.91	2.40	2.19

注 項目 1, 2……は別表3の 1, 2……にそれぞれ該当する内容である。

教育実習についての報告

別表5 教生に対するアンケート

項 目	よ い	ややよい	普 通	やや悪い	悪 い
実施した時期	1	0	5	5	0
実施した期間	0	0	1	4	6
HRに配属されたこと自体	6	2	2	1	0
決定されたHRは研究上適当であったか否か	5	0	5	0	1
HRを全体として把握できたか否か	0	4	3	1	1
データの収集程度（自分の計画と比較して）※	0	1	4	5	1
データの整理の程度	0	0	3	5	1
HR全体にうまく接し得たか否か	0	0	5	3	2
生徒に親しめたか	1	4	4	2	0
HRはあなたに親しみを持ったか	0	3	5	3	0
生徒はあなたに親しみを持ったか	0	3	7	1	0
指導教官としてうまく連絡接触できたか	2	2	5	2	0
観察を3段階に分けたこと	0	0	6	3	2

注1 数字は実数 ※印は未記入のあるもの

以下は自由記述の形式をとったので省略。

- 教育に対する考え方を深めるのに役立ったか。
- 教職についての理解を深められたか。
- 授業を行なわなかったことについて。
- 負担が大きすぎると考えた点。
- 最も力を注いだ点は何か。